

生まれた時から親なきあとまで、障がいのあるきょうだいと関わっていくということです。それは、人生の多くの選択の場面にも影響することは明らかです。

「きょうだい」の家族の中での役割を、アダルトチルドレンのそれに当てはめ、○ヒーロー(模範的で高評価) ○身代わり(トラブルを起こす ヒーローの裏返し) ○いないふり(自分を守る) ○道化師(緩和役) ○世話役(自分のことを後回し)に分類し、「きょうだい」はそれぞれ複数の傾向を併せもっているが、ヒーローと世話役が多いというデータがあるとのことでした。また、ケアラー(介護者)としての意識調査では約7割の人がそうだと感じていて、小学生のころから、きょうだいの面倒を見なければならないと思っている人が多いとのことでした。

午後のシンポジウムでは、「きょうだいの会」で活動されている5人の方のお話をお聞きしました。年齢や性別、兄、妹、「きょうだい」の母など、立場や環境は様々ですが、それぞれの使命感や拒絶感、戸惑いや決断など、どのお話も多くの参加者の共感を得ていました。中でも私の印象に残ったお話は、「障がいのあるきょうだいと共に歩むことは受け入れられないが、進路を選ぶ時に幼児教育を選んだのはきょうだいの影響があった」と話されたNPOいちばん星 きょうだいの会キラリ代表 乾芽莉氏の発表でした。乾氏は保育士をされており、障がいのある園児に関わることはもちろんですが、自分の経験から、障がいのある子を中心とした家庭で育つ「きょうだい」の自己肯定感の低さや、社会経験の不足に着目し活動されています。きょうだいのことを話せる機会や同年代のこどもと同様の経験をするなど、自分自身を開放して自分らしい生きる方を見つけてほしいという思いが強く伝わってきました。

お話を聞いて、「きょうだい」もまた、当たり前に戻ることが難しいのだということに再認識するとともに、大阪市育成会も本人、親だけでなく、今一度「きょうだい」にも目を向けた活動をすべきなのではないかと考えさせられた分科会でした。

#### 本人大会 第3分科会

「ぶっちゃけトーク みんなで話し合おう」  
～権利と障がい～ に同行して

法人本部 道畑 有美香

第5回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会・京都大会 本人大会では、大阪市手をつなぐ育成会 本人支部「きずな会」の3名が、大会実行委員として本人分科会の準備会から参加してきました。



(左から、中元さん・藤井さん・佐々木さん)

「近畿みんなであつまる会」会長 中元政孝さん、「きずな会」会長 佐々木仁さん、「きずな会」書記・会計担当の藤井恵さんです。

当日は、第3分科会「ぶっちゃけトーク」みんなで話し合おう～障がいと権利～を担当し、3部形式に分かれた3-3の司会を任せられました。

3-3は「障がいってどんな感じ?」「必要な工夫はなにか?」をグループで話し合いました。“知る見るワークブック”を使用して、「障がいってどんな色だろう?」と「障がいカードと配慮カードを使用して必要な工夫を考えてみよう」を行いました。中元さんたちは、悩んでいるグループには自分の思いを話し、こんな風に考えてみてはどうかとアドバイスをされていました。

夕方から行われた本人交流会には約70名が参加し、藤井さんが大阪市を代表して「きずな会」の紹介をしました。発表前は緊張気味でしたが、本番ではそんな感じも見せずに堂々と紹介されていました。あとで感想を聞いてみると「本当は緊張したけど、うまくしゃべれて良かったあ。分科会でもみんなと話せて楽しかった」とおっしゃっていました。

大活躍をされた3名の皆さんお疲れ様でした。

本人大会 思い出観光 バスツアー  
「世界遺産“金閣寺”と“東映太秦映画村”」  
に同行して  
メープル 福山 亜希

本人大会で企画された「思い出観光バスツアー」にきずな会のメンバー7名と参加してきました。

行程には平安神宮・神苑と東映太秦映画村のAコースと私たちが参加したBコースがあり、どちらにするかを参加するみんなで相談した結果、Bコースの金閣